第五十五回卒業証書授与式及び第二十七回修了証書授与式　告辞

鈴鹿工業高等専門学校を卒業、修了される皆さん、おめでとうございます。教職員を代表して卒業生、修了生にお祝い申し上げます。また、これまで長きにわたりご支援を賜りました保護者ならびに関係の皆様に厚く御礼を申し上げます。今年度、準学士課程卒業生は 192 名、専攻科修了生は 23 名です。卒業生にはモンゴル、マレーシアからの留学生 2 名が含まれます。

皆さんは中学を卒業した段階で技術者への道を志して鈴鹿高専に入学されました。入学当時は、卒業までの道のりが長いトンネルのように思えたかも知れません。しかし今皆さんの前には、明るく広がるそれぞれの景色が見え始めていることでしょう。高専生活には躓きや悩みもあったと思います。特に最後の一年間は、新型コロナウイルスによる予期せぬ混乱と不自由に直面されました。これらを乗り越えてこの日を迎えられた皆さんに心より敬意を表します。

皆さんをこのようにお送りできることは鈴鹿高専の教職員一同にとっても大きな喜びです。この門出にあたり、皆さんが高専を「今」卒業することの意義をお話ししたいと思います。

ご存じのように、高専は実践的技術者を必要とする産業界の強い要望で 58 年前に設立されました。皆さんの大先輩達が、世界の奇跡と言われた日本の高度経済成長に大きく貢献したことは良く知られています。それでは、今の高専はどうでしょうか。

高専設立から 60 年近く経った今日、社会の問題は複雑で多様になり、解が存在しない時代と言われています。例えば今世界が直面している新型コロナウイルスへの対応も、考慮すべき問題が、安全、経済、教育など多様にわたる典型例です。また、今日の産業構造や生活様式はこれまで人類が経験したことがないスピードで変化しています。その背景には、人工知能や IoT の出現、専門領域の複合融合があることは言うまでもありません。これらに伴い、技術者に求められる人材像が大きく変わりました。東京工業大学の齊藤滋規先生の言葉を紹介しましょう。「最先端の専門知識を備えた人材が貴重であり続けるのに異論はないが、それでは足りない時代である。今後は、手が良く動き、新しい価値を創造する技術者は引っ張りだこになるが、決められた手順や手法を繰り返す技術者や、オーダーされたことを黙々とこなすだけの技術者は、労働市場における価値を著しく落とす時代である。」と述べています。

このように分析される今日、高専にあらためて大きなエールが送られていることを皆さんもご存じでしょう。人工知能の研究者である東京大学の松尾豊先生は、「イノベーションに求められる素養と高専の教育が一致している」と述べ、「この日のために高専があると言ってもいい、高専生は日本の宝だ」と絶賛しています。皆さんは社会に出ると例外なく、同年代の技術者と比べて圧倒的な実践力が身についていることを実感し、松尾先生の言葉に納得するはずです。

一方で皆さんは、高専で学んだことの何が礎になるか、漠然とした不安があるかもしれません。そこで、4 年前に文部科学省の事業で実施された高専卒業生のキャリア調査の結

果を紹介しましょう。高専卒業後の社会的評価に対して、高専在学時の何が重要であったか卒業生に聞いたのです。ここで卒業後の社会的評価は、収入、職場での地位、仕事の満足度の３つです。アンケートの結果で学業成績は勿論重要でした。しかし興味深いことは、高専時代の友人満足度とものづくり能力が学業成績と同じ程度に社会的評価と相関があったことです。つまり、成績が悪くても仲間がいれば、孤独でもものづくりに打ち込めば、ものづくりが不得意でも成績が良ければ、と高専教育が三段構えで良い職業的キャリアへの道を開いていることを示していたのです。

高専で得意だったことは大いに自信をもって下さい。そして不得意だったことに拘り過ぎることはありません。多様性の時代である今日、社会には皆さんの様々な能力を発揮できる場が沢山あります。例えば不得意だった科目も必要になったときに学び直せば良いのです。卒業するということはそういうことではないでしょうか。本校の建学の精神である、知・徳・体のバランスがとれた全人教育は時代と共に古びること無く、今一段とその輝きを増しています。この建学精神に則って熱心に取り組んだ様々なことを礎にして、社会で一層自己研磨し、活躍されることを期待します。

最後に、もう一つ大事なことをお話しします。高専に入学するのは同じ年齢のわずか１％ですが、高等教育機関で学んだ技術者の 10 人に一人が高専の卒業生です。皆さんは社会に出て、多くの高専卒業生が国内外で大活躍していることを知り、心強く、誇りに思われるでしょう。またその繋がりが大きな財産であることを実感されるはずです。

私たち教職員は、皆さんの人生の最も大切な成長の時を共に過し、喜びや苦労を分かち合えたことに心から感謝しています。これからの社会は誰も想像できない未知の世界ですが、それだけ大きな可能性があります。卒業、修了される皆さんが、その最前線で活躍されることを、校長はじめ、教職員は信じて疑いません。皆さんの活躍は、鈴鹿高専関係者全ての喜びであり誇りです。皆さんのご活躍を心から願いお祝いの言葉とします。

令和三年三月十九日

鈴鹿工業高等専門学校長
竹茂　　求